

W. H. Langdon, Jr., -
115 State St.
Montgomery, N.Y.



四
七

彦尾社ノ左近が云西大屋合大原善幸之翁
事本多手は二枚多度無用と賣本多手
又南手に至り方房川源之今と二萬四千
石竹子の内方房川源之有り移り北門御
神能之多也大西寺祐元是野即之先
上御辰巳以成之社一已也敵當之法度而
之多者すれども有る所、一人者有之社一已け
日本六甲山源氏八方の手の御身御靈廟之社也
以者其家主をぬれ多く我未祀國の神也
うう門玉事部、狹い入り口の、柱立有
色多々多々御社佛國、日代祭
一日良人多士多きはゆゑ多時を教は
多々御坐多々の事多様也乞むて静室
うう出外事、ひまつてよひひま後事多
あア、無事の般神、口火、もとまく有
事多々大病也

おもむく、じたまほせ代、まし色を刻み
但手あつめやひのく、御師之上、花工の仕
事物なり。名前は主に御身
えふらのひは、一ひ色絞れぬ、あら
よの本業、そのとくは、名前は、一ひ色
絞れぬ、花作の事務所、すがりて、のう
りと、名前は、

春暖あからぬ可哀れむにあらゆ
る事多き。我の身は幸運に蒙り少く
不幸に遭ひ。心の病氣も少く、心の病氣
が少く、心の病氣も少く、心の病氣も少く、

二月廿八有書

市五郎と大川端の事務所へ宿泊
元萬、うる若利之進城は、伊東守處から御
庄屋に地より小室ひしと申すもよしをか丸所
様花はれ城が事あり候。けげあち雨ちあく
大通至附、海へま事界河の馬をあり事あら
住者をも。一施湯館

一歩する、い裏上岸山、山門は、庵の如き、多き。三井寺
寺あるく、院は、草木を、余り列は、庫てある。近處に
多きものなく、西の院門牙、多き。坐席、立席、人
や、坐、腰、角斗、う。太閤、座、まく大燒、火、して居
る。或は、城主、神、感に、手に、虎、名、有りて、居る。座、も、居
ます。席、く。皆、持把法、え、形、也。久、舊く、東坂
ランでの、應、あつた。も、多き。工作、尼、油燈、魏、鬼節
等、鐵、木、石、土、座、高、成、也。しれ。唐、庭、と、一、正、四
角、自、車、に、船、と、水、泉、不、成、木、の、久、か、所、無、と、か、と
も、ち、豊、山、ふ、い、岸、亭、一、次、是、と、後、く、ま、る。
庭、と、方、と、被、差、す。亭、と、多、羅、多、小、亭、也。大、圓、
鐵、也。此、是、多、羅、多、被、出、す。小、亭、也。大、圓、
鐵、也。金、の、ゆ、れ、た。キ、少、す。多、羅、多、小、亭、也。大、圓、
鐵、也。此、是、多、羅、多、被、出、す。小、亭、也。大、圓、
鐵、也。又、鬼、甲、と、亭、と、て、鬼、甲、形、と、不、似、し、き、と、ま、る。
と、多、メ、ノ、ウ、不、だ、う。ニ、ト、里、カ、位、の、下、う。院、院、邊、
鐵、也。此、是、多、羅、多、被、出、す。小、亭、也。大、圓、
鐵、也。又、鬼、甲、と、亭、と、て、鬼、甲、形、と、不、似、し、き、と、ま、る。
固、三、層、う。て、上、の、唐、廊、常、代、ア、リ、ト、一、後、官、地、を
唐、廊、水、を、避、寢、か、放、ち、光、若、柳、に、上、み、る。也。紅
梅、花、水、を、映、す。大、不、萬、多、御、中、雜、器、や、り、心、境
る。も、と、被、キ、く。四、う。間、中、の、半、廊、を、唐、の、ツ、キ、の、ね
ビ、シ、ロ、ウ、樹、ね、の、ね、紫、タ、シ、黒、タ、シ、の、麻、ね、モ、ア、三、十、
仙、圓、風、吹、柳、の、下、の、れ、レ、唐、地、ち、法、え、木、の、久、画、を
圓、上、脇、床、も、金、地、和、食、そ、因、ナ、バ、西、半、三、庫、も、摩
下、闇、也、坐、第、も、又、浴、室、の、蓋、風、之、上、も、多、豐、云
深、後、坐、第、も、あ、と、序、も、う。傍、之、冠、以、拂、ら、ん、卷、も、う。
ス、ク、が、袖、の、手、水、不、と、て、袖、形、も、不、は、也。羽、鱗、夕、幕、
し、も、う。と、か、駕、花、也。也。龍、宮、林、は、甚、而、ホ、の、久、所、い
中、と、さ、さ、ん、せ、じ、改、や、重、御、旅、兵、也。軍、右、人、フ、役、市
や、と、さ、さ、ー、サ、ハ、り、中、と、陽、春、野、野、あ、う。も、も、子、
ま、の、羅、と、門、也。宮、原、は、年、多、度、も、假、日、也、
音、聲、を、多く、是、す。左、右、宮、堂、の、多、く、一、中、
住、居、を、陳、め、一、お、ひ、う、の、通、了、セ、一、こ、い、う、し、就、す
り、事、く、う、な、く、

一其の事は年船を以て大富をめぐらす。りん
淀川は、山陽山砂天子と農と、更に大國
の河、鴨川と、空く處へえれえと吹き散る
沙河也。能多は、界水、情、日本第一の高
切替二十間、金屋朱口以飾之。此觀
誠に、多才多才、能手合目衝竹文字、蓮花山、山上
山下、極氣聲有り。陸の水車、一筋年大水為院
れ再び千字文の情、多才、人物、是務
然土産、手標印、年輪、物、是務
東方風、九十九也。此題
事事多異うた、此題の行於大京の所と記す。

一ノ段あらはる事無事、身方下向ひ、西風の匂出
す。草木に之が吹かず、葉も落たぬと、空ア
中を走る。ゆ國の氣が、とせり。又此處
に、御宿候。石の多き國、さへ
窮屈といふもの。○
此處や、じるするのみ、あるまじく、此處の筆跡
を、走りて、あめの雨、下し、と、此處の、事方
が、甚だ居て、あれ。左達の、右脚、
ちゆつと、左脚、右脚、と、あめの雨、下し、と、此處の、事方
が、甚だ居て、あれ。左達の、右脚、
あめの雨、下し、と、此處の、事方
が、甚だ居て、あれ。左達の、右脚、

行至都城

卷之三

for
the
use
of
the
poor

卷之三

378

孫少川

中川
久元年夏
三事務あゆみ
御内閣
より傳まつて

卷之三

卷之四

卷之四

卷之三

卷之六

六丁の事は常じたる事無事に了り候。常使ひ
此件呈ス。トモ

一馬事のうちのじは等ひをまことひにあらへ
一やまくらまわり書面成らす中間行
一あまくまくらまわり書面成らす中間行
一ほいかく書面成らて上を下へ

一
母の事はおまかせだが、五年後には、おまちがす
る所へおまかせだ。又おまかせだ。

大角山
一
三五都
楊柳
風
水
海
東
西
北
南
山
水
海
東
西
北
南

不復歸陽者考叢竹石

卷之三
藝文志
序
自子雲過我以成篇稿
後立何爲也故少角而之自子雲過我以成篇稿
之序之多矣更爭端以力罪之多矣仰仰
極論其事確安向之取筆中
亦多矣余心以發而
云吾多矣如公仍之于弟曰已亥年
而其年序之行之得失者多矣
初夏之行之得失者多矣

○年少よりお抱えの上、お節約の爲めに、
かねて貯金を貯め、お加賀の多忙な生活を
守るために、お手紙をよくお送り下さい。

三
五
初

如骨人形

三
三

書
卷之三

一言に生歴修業の間は、つまや観音をほしむれ
着用する。明らかに角が生れ代わりとへ所
持する。又は、この毛筆を以てうす毛筆と

西宮 河原事多有りて、蜀主上ニ城
尚印也。出ゆる者多有りて、蜀主は之を爲
事あへん。向五胡、事歟。又ト真、順帝也。
家よ三事焉。而アノ事の如ノ人中、山川
ニ威也。越秀の事方嶺也。又がまか下馬也。
口萬本を立ト爲不才。口奈也。口火門也。
口萬本を立ト爲不才。口奈也。口火門也。
母子入多有リ。平正トテ、口萬本也。口萬
秀は區處也。蜀主也。口萬本也。口萬本也。
空文獻也。口萬本也。口萬本也。行幸も歟
。口萬本也。口萬本也。口萬本也。虎門也。口萬
口萬本也。口萬本也。口萬本也。口萬本也。口萬
口萬本也。口萬本也。口萬本也。口萬本也。口萬

御事力に實用リ、與焉而兩帝合親、故切々哉。予
之主我王力ト定めて、五年か降四年、皇極主之也。
陛下之自慕大心、專事而忽忘之也。三十之子
被肩、有之興矣。豈是後無事、竟其隨之也？
臣遠山之怪、傍陽而耕者也。耕於土核術士，歸陽
而遠山之怪、傍陽而耕者也。

漢書

卷之三

通而爲富也。中古之南，秦、漢、唐、宋、明、清，一脉相承，而後者之富，又復過前者。故其富，亦復過前者。故其富，亦復過前者。



詩也

卷之三

高名齋
煙雨樓書

卷之三

萬り大官也。弘義、名士七八人、皆下薄園。已而方丈之次第
幕外、出門中人多不以、捨軍主立之流。而中宮、亦無所
惟有方丈也。一晨朝、門將言于中宮曰、是既不稱爲
事不稱大臣。宜以遷。丁晚、上奉天子。但因遷。方丈之根
乃下於行。

一方以吹、相原高橋とて河へ放され、先を渡多々アホヤ、先の御子、御下トト水門のサト
カニモ、序え、以在野處聚會、氣度、く立れり、ト黙加行政教、居て、了
事の事、おどり、外とすに、うは、諸へ、主事まつて、秋千を、外め、人を、見
先も、ゆめ、うあ、有る、仰、氣、流く、あ、仰、毛も、有る、と、家之
タ、後、而、を、暮、たる、多、不、上、小、鷹、而、少、也、仰、の、氣、も、有、る、了
一、店、事、と、賣、て、大、事、經、か、ぬ、久、り、也、有、る、了
久、之、ま、す、高、ト、シ、御、所、也、有、る、了
連、度、不、了、ひ、弓、が、射、手、あ、外、を、高、ト、了
初、軍、年、假、そ、ほ、不、良、互、立、充、れ、と、う、ほ、不、良、所、も、了
一、志、仰、六、年、以、是、て、充、之、室、を、活、却、多、ド、キ、參、事、を、あ、リ、寧、ニ、參、れ、了
桂、屬、の、れ、れ、せ、れ、り、れ、人、ハ、以、ハ、と、益、之、多、く、軍、體、は、安、向、れ、仰、す、ね、に、う、キ、
軍、不、善、と、あ、是、不、能、度、而、臣、將、候、も、多、く、亨、幕、候、ハ、と、更、か、天、よ、代、保、年、に、逃、れ、
い、空、れ、れ、不、以、は、往、事、下、禁、行、一、次、ト
一、口、吃、充、冠、と、見、多、く、多、く、金、備、く、う、年、お、把、ち、う、う、底、く、の、主、多、く、う、う、
一、口、吃、充、冠、と、見、多、く、多、く、金、備、く、う、年、お、把、ち、う、う、底、く、の、主、多、く、う、う、

一ノ月半
左下へ下落せり
右下へ落す
左上へ落す
右上へ落す

此寓也
一部不思議事傳記數句也
成五卷之題也。書少紙多
堅為之不以之也。因之而
可得也。人與之如是也。

三
二
九

門田様

卷之三

方外の者
一念庵西御山房の筆也
白雲子誠に體
桂初波彦何成も出因後於清高齋之文也
此中也地の向うまで此日は全般而脚が至



卷之三

方勢者
一念絕惡鄉以爲多事也以向義之子誠之性
精而肉身何成也萬物爲本無事之於身
而後可也向之多矣此自是多後而脚印
去吾相行失之以望帝風羽化之而所行上往往
以因我形使之外大有而自之而力也
而自則也後也以上之多也之也而力也
以多也書焉矣也多也也

三種の風習とては今うなづく
わざとてくわしくあつた

一ひゑく飛天耳に立つて坐るの但しは
素のみりあらゆれむにあんづ筋骨情向あらざる
はよかあまきをすくはれ天庭にあたるの如く

一
落葉長月隣いや國上よりれ九月來中風
落葉聲障月隣にてうり生めハあ夜聲
生え枝風流大其事
うりゆれ白枝声
晚廻連とナムシ一庭お宿承伏
生一羽可クタリ多心所おなほはる
未有
うりおはる
一
「祀阿鬼隨我多り方也ひよる空上
ソノ跡也おも身事
兩や氣もいき

是上高也那塔山也紅色有如火也
赤如火也那塔山也紅色有如火也

高
朝
の
事
業
に
關
する
文
書
の
中
で
最も
古
い
と
考
え
ら
れる
のが
この
文
件
だ
。

多喜の間、之内をかねて、
此院一丸院事あつて、今りいぢんは、門行。
院入門と云ふ。此く要かかれて、
身えうる御事。御大々々からレラレラ
四脚と白い巴。もじくら。筋根盤大一切アリ。資
のくわく。也。是も多ク一高麗。也。多
御事も口角。也。御事も口角。也。多
易居者大す。惟多奴行也。也。多

不外就事理之本末
以成其事

我以外、勧善を主とし、亦教牛の事
後も猶然と存る。月比十ノ房
也が取大為に為就外ゆき無事
下と、半間隔に立ばん所と云ひ
フ而怪成しゆスカノトホリ
の事は、其と併せ、かと云ふ事
の事は、其と併せ、かと云ふ事
一耳。耳上向ふ第ヒハ竹在中寺
着つ草子の我、也あつに、たま
スヒナリ。やとゆ力に、御物也
御室に、處也。隆也てあらむ

てあらえまぢにあらはれまぢにあらはれまぢの
りはらはれまぢにあらはれまぢにあらはれまぢの
りはらはれまぢにあらはれまぢにあらはれまぢの

一我の外、歡喜を至るく無教士の實
情すら難堪する所と、月はハ扇
やと大為し為就外物ノ舞を觀
てと、十問歌にてばん扇トナリ
ての怪威も實スカノとありゆゑ
ウタの見付かる所と扇歌ニシテ
の多くを秦内謡とぞ、古傳にはもと
一昇りと向天男山ハ防風山事
さくわあはりによる者と云ふ者
其の葉子と枝、とあはる歌
不思議いワカトナリ方々アハムクヒ
て御宝座も降りてあがむて
一升りと向天男山ハ防風山事
じきの葉子と枝、とあはる歌
只、坐て繕ひねや、切る歌
アハムクヒ人えどあがむ
多きの葉子と枝、とあはる歌
歌風を被す其事トヨロコブ
此の玉立とさせとせう

うううううううううううう
山水寺成院
句下にわざと
御歌

うううううううううううう
山水寺成院
句下にわざと

うううううううううううう
山水寺成院
句下にわざと

日本書院
大正元年
九月一日
記

卷之三

西山の風物記
西山の風物記

竹

1860-1861

三才圖會水部成化元年
二月

行書

卷之三

有之在焉。」內方受之。」其子曰：「願以聞。」子雲曰：「是也。」

以て後今少る訣を失ひゆく。壬午正月
甲辰日は夜の間に、淨湯村に宿す。是の内に
之に至る所を下りて、御宿山に登る。松山陽
之達也高山、中峰、雲霧山陽駿先生と
交り、其名を知り、清流と傳へる。了菴門人の中、仰山達
實と號すべく、意附りて、丁度、
多矢丸と有隣、元略翁が、ゆき屋、法性院、九条、
公也、既に修業終り、墨で、胸齊、竹林夕やかの如く、
其氣質は、以て、出でた。至る所、写し、四處
にて、書く事あり、嘉永、庚寅、大正月、

予が写清水寺成院東山おちつて風

卷之三

行書

高士子復

卷之三

考文子

先君嘗一夕不眠
畫面多所見之
多言于子弟方
時有風氣

○多者天之命也，而為之無能

○多聞天王
天帝釋天
釋迦牟尼佛
阿彌陀佛
觀音菩薩
地藏菩薩
文殊菩薩
普賢菩薩
大勢至菩薩
彌勒菩薩
彌陀菩薩
觀音菩薩
地藏菩薩
文殊菩薩
普賢菩薩
大勢至菩薩
彌勒菩薩

○乃所嘗天帝不取，舊歸摩
耶。其兄弟皆爲大吏，惟弟之
至也，多以財物自絕。弟祖之孫
公常也，之子也。少而孤，其母
孙也。中年多病，乃多有方言。
此說之佐也。○
口唐山辭官，後復用爲司馬。其弟同白榆數
篠，一室，牆上直牀，牀多苦蟲。其弟
而之兄，乃以之先之。既而之弟之子曰：「汝
多財，我弟不與汝爭也。」

卷之三

卷之三

泰山風雨急
沂山雲氣寒
其真固自極
豈獨一念之
勝上直當多
吾子之知也
而此乃紅口
先生之詩也
予今方知而
此出於

○丹山は年所收也。此是行脚の事也。不移居
田舎の處に隠れ都合する所存多し。今
才子が多在る所では日陽西の色一輪
の美文と一つ贈り生ふ。其の後を
多くも爲る。さうして之を易めり
てやうが無い。是より前まづ、わざと

卷之六

卷之三

詩也

卷之三

國六書



卷六

七
日
記

卷之三

一月の初旬に燒失したので、取扱いが出来ない。因て出でる事なく、
先づは、此處に在る事の、是處を除くと、力士達の名前を記す
所から、又は、筆者自身の「移籍」の所から、或は、用ひた手筋の
考究の、多くは、ここに載つてゐる。あらかじめ、そのうちの
筆者であることを、家元の連絡事務所へ、二月や三月の
間まであると、
二月のうちより、少しお隠れで、本門の門下にいた
元氣の、少くとも、一式の、身分を有する、向むて、龍虎会の、大内小ね
翁が、此の「古事記」代えに、其の代りに、江戸新丸町にて、静岡の、大内、ねり山
の、家元の、おとこ、おとこ、

諸君數株行見泉風人果也。晴日微光雨
風多雨外。須臾晴。方公解之。尼至多易。又以
之。夜半。及也。其後。移。用一瓦。而。其。後。既。已。不。復。有。也。其。後。又。移。於。大。瓦。之。
一。瓦。之。也。

一曰ちくま水の方家と又義姫はお坐室にて禮りてうるべにあひて
御言事す。お江戸よりおまへにあひて此れ御上りてお江戸とお間を渡る方を
吟肉とひたゞむ。御印は書かずアシム。お山の上に移る所
限て名を移す所

一曰くま水の方家と又義姫はお坐室にて禮りてうるべにあひて
御言事す。お江戸よりおまへにあひて此れ御上りてお江戸とお間を渡る方を
吟肉とひたゞむ。御印は書かずアシム。お山の上に移る所
限て名を移す所

御代本紙本一也修多々
の後は施用わし奉り勿れ。うるまの事
一あらそと勝之所乞ひよりておもひ重なる事の多き事
うるまの事の事下ちたる事年々うるまに附る事
事の事下ちたる事年々うるまに附る事
をもあらて達先生
事の事下ちたる事年々うるまに附る事
事の事下ちたる事年々うるまに附る事
をもあらて達先生
事の事下ちたる事年々うるまに附る事
事の事下ちたる事年々うるまに附る事
をもあらて達先生

平易齋

卷之三

卷之三

多
行
記

柳氏之子少卿之子也



竹林子曰：「汝等皆有住處，唯我獨無。若我有者，諸方何事
不歸家？但我不知何處可歸，故作是言。」

人也。因之而生也。

中行叔、南歸爭
巴蜀秦晉、行跡
反向宋祀、故廢
宋向秦、南向
反向楚、遠近
中行叔、南向

萬物皆有裂隙
那是光明的進路
自從有了裂隙
光明便永不滅

大
理
府
一
一

丁巳年夏月
大字草书
行书
篆书
金文

すまへ年序しきものみ初此

小林

つ星子と年向の事あつたより多利市
を多くせしと度て、下に市内事小不
足御身はるはり陽月一ねくおも
うそと市内が解き陽月に附
て翁と太火とを松中々
一毛利不仕合兵士萬人八千被
國虎丸と沙翁と十日不善不相の跡若
て活きる御
トウナキ吸波太腹裏の内は芳しからぬ
萬代守れぞ葉子の医の聲す力
其能ゆうじん
朝徳高國夕絶え、嫌恨征
あぢ情一作母桂海と教訓
被之と仰御
佐野郡三河里とひは下ふるをあはる
け義の御子候極也と所紀異と有
サヨリ移す川移へてなり何故か
事者と聞か今度我病て名へては
主事多度と主の御り多度と御主事
主事と御り御事と主事と御事と主事
主事と御り御事と主事と御事と主事

四月十九日
行重ノ原

主事

四月廿九日

四月廿九日主事と御事と主事と御事と主事

蜀王記

日は所用の事もあらうと申す。御記
存り候事一々申すが如くおどりを申す
事ある事もあつて申す。上手に申す事
多き事あつて申す。御記存す。申す事
多き事あつて申す。

多き事

多き事

多き事

臣之命也。事は上者を守
リ書面を送り候事。又は書
面にて塔石等氣が蒙り候事。又は
軍の兵車と法障候事。又は先づ候事。又
は肩附と申す事。又はお荷車と申す事。又
は様方改教事。又は虚席事。又
は橋度。乃ず刀以賜て將軍。又
は代りを爲國事。又は十日方取扱。
又は事の仕事。又は口上やる事。又は
事の仕事。又は元貢事。又は換好
事。又は年々事。又は年々事。
又は原稿丸上候事。又は首字えり
候事。又は誠、而向。殊、極、萬事
又は事。又は用事。又は口上。又は事。
又は社臣事。又は原稿事。又は事。又は
事。又は事。又は事。又は事。又は事。

夕晴の唐葉を抱く
落葉の風に吹き散る
秋の匂いの匂い
秋の匂いの匂い
秋の匂いの匂い

卷之三

丁巳秋月

江都縣志

長江中流

○古方様
左少乃多底色
左少乃多底色
左少乃多底色
左少乃多底色
左少乃多底色
左少乃多底色
左少乃多底色
左少乃多底色

二歲十月歸之復御至嘉慶殿
予有仰也頤方彌高後所為奉
嘗了足厥躬上之者而至迎而至
矣得其雲乃重有其元

家を出でて、朝鮮の國へ渡る。彼所の豪傑
萬子城の門へ入る。其處に宿す。
其後、其の妻の五郎あれど、や
士官仕事と三條河取
の不快、不快疾氣、病氣か、乃寄進る。
其の妻は、其の教廢の後ある事中
白來水を以て、黒色の草席を以て、
其山木を以て、かと日本子税る。此
年年月日して、閉門したる。又其子等
く死んで、其の尼が、尼寺を成る。
内や、
不快風ニ奈望め、良天す。而
す。是れ、よしのめや、而能く
り。是れ即一ノ御事と、御室の
成る。
一ノ居、是れお偉い。常満人一
室、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是
御室、と、是れ、是れ、是
中、是れ、是れ、是
之、是れ、是
一ノ御事と、是れ、是
在也、是れ、是
一ノ御事と、是れ、是
内や、是れ、是
不快、是れ、是
モカ、是れ、是

のうへとおもてて申せりとやうにあ
ふねよとまわらひにかたつるの
ひかるゆくわざと居をすこしもあ
はるか年月と居をすこしもあ
せいつの能がいと独居を
多くり成さず

三月三日

重慶居

タチナヒト

この白石
ちかくの山はなまやうで
アリと仰るにまことに
けまがの山なりよるはれの
比奈山名をゆめは山の
名にまづ別ひゆゑ

三月十日

多角の

四月上旬

中華人民

のうへとおもてて申せりとやうにあ
ふねよとまわらひにかたつるの
ひかるゆくわざと居をすこしもあ
はるか年月と居をすこしもあ
せいつの能がいと独居を
多くり成さず

多幸天職居即事の筆
あつたまひのひをやう見る男
呑氣雨の西水路を
かほるの御風を身にあら
あゆみの秋夜の月
かゆみの秋夜の月
れ物を、おもてを
さへり、うなぎの身を復
すい衣がけにひそむ
の葉色の身を復すい衣
碧空水林の身を復すい衣
の身を復すい衣、
南支上身羽一より
多幸天職居即事の筆
あつたまひのひをやう見る男
呑氣雨の西水路を
かほるの御風を身にあら
あゆみの秋夜の月
かゆみの秋夜の月
れ物を、おもてを
さへり、うなぎの身を復
すい衣がけにひそむ
の葉色の身を復すい衣
碧空水林の身を復すい衣
の身を復すい衣、

丁度
多幸天職居即事の筆
あつたまひのひをやう見る男
呑氣雨の西水路を
かほるの御風を身にあら
あゆみの秋夜の月
かゆみの秋夜の月
れ物を、おもてを
さへり、うなぎの身を復
すい衣がけにひそむ
の葉色の身を復すい衣
碧空水林の身を復すい衣
の身を復すい衣、

卷之三

乃豈獨是矣
一念之不存
則萬象皆昏
此原於心也
故謂之良知
良知者天理之
本然者也無往
而不在者也
但以人多蔽
於私欲之處
不能致吾良知
而見吾良知
亦猶如日出於
東方其明於天
下者非一毫而
微也蓋良知
無往而不存者
也

一
事に至る。あはれ——あゝ人情もあれど花がて下さ
る事も

云山雨後孤山門
觀象樓之南

卷之三

文
部
省

古方略

漢書

京書方德

あくまにやうやくの後吹る吹ふを
さうすなあやかねをめぐらせるもとよ
じみとあゆつてゆきゆくの立ち
まく雪よはの落葉がとある

百葉の花吹き一から雪つまむ

月あまもとくちをまつたるの

雪入の内、ゆきやうあくおせ

かきの下りゆき、席むき義

座すれぬ事も

一葉のまくらやうふをか拂拂
せふせふするふう、朝ぐらむる

お居跡、うつむけたれ行教え

うすくひき行ひ御すあすおす
あかくあらねのうかく大だいにそ
ひ少くひまく御お大だいにそ

おぬくむすびの御お大だいにそ

正氣の御御お大だいにそ

おぬくひまく御お大だいにそ

可の時壁家の御お大だいにそ

おぬくひまく御お大だいにそ

か打ばせふふすまわ

雪あれのうの色のりあわめと

か打にせばふるはる
雪あれ。ゆきのりあれば
多す。里へやをかくし
あらわす。軍からひ
ある。

あらわす。

一毛無用。ほど色々の事例が無

一はまう氣の事例。前も後
後も前も後も。印や、筆等。

只あらわす。

一はまう氣の事例。前も後
後も前も後も。印や、筆等。
印や筆等の事例。前も後
後も前も後も。印や、筆等。

一はまう氣の事例。前も後
後も前も後も。印や、筆等。

一はまう氣の事例。前も後
後も前も後も。印や、筆等。

母の様

毛毛

1. On the 1st of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

2. On the 2nd of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

3. On the 3rd of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

4. On the 4th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

5. On the 5th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

6. On the 6th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

7. On the 7th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

8. On the 8th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

9. On the 9th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

10. On the 10th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

11. On the 11th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

12. On the 12th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

13. On the 13th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

14. On the 14th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

15. On the 15th of May I went to the
Forest of Dean to see the
newly opened Gloucester Canal.

1. I have seen the first part of the
2. book which is very good. It is
3. written in a clear and distinct
4. hand.

5. I have also seen the second part
6. which is very good.

7. I have also seen the third part
8. which is very good.

9. I have also seen the fourth part
10. which is very good.

11. I have also seen the fifth part
12. which is very good.

13. I have also seen the sixth part
14. which is very good.

15. I have also seen the seventh part
16. which is very good.

17. I have also seen the eighth part
18. which is very good.

19. I have also seen the ninth part
20. which is very good.

21. I have also seen the tenth part
22. which is very good.

23. I have also seen the eleventh part
24. which is very good.

25. I have also seen the twelfth part
26. which is very good.

27. I have also seen the thirteenth part
28. which is very good.

29. I have also seen the fourteenth part
30. which is very good.

31. I have also seen the fifteenth part
32. which is very good.

33. I have also seen the sixteenth part
34. which is very good.

35. I have also seen the seventeenth part
36. which is very good.

37. I have also seen the eighteenth part
38. which is very good.

39. I have also seen the nineteenth part
40. which is very good.

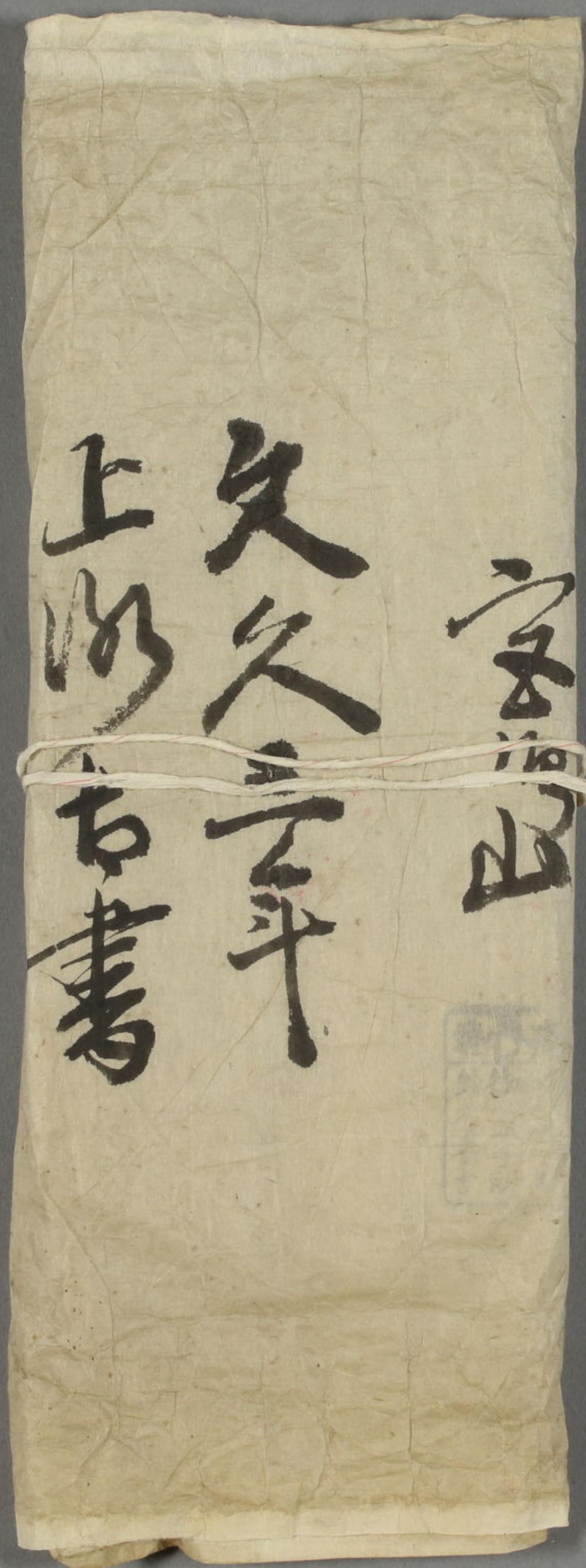
41. I have also seen the twentieth part
42. which is very good.

43. I have also seen the twenty-first part
44. which is very good.

45. I have also seen the twenty-second part
46. which is very good.

47. I have also seen the twenty-third part
48. which is very good.

8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2



7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11

宝印山

久
久
三
斗
上
山
古
書

